

令和8年度第3回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和8年7月25日（土） 1回目 9時～10時30分

2回目 11時～12時30分

テーマ：夏休みだ！ 昆虫さがし大作戦

場 所：霞ヶ浦環境科学センター 野外施設および多目的ホール

案 内：久松正樹氏（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）

内 容：夏、多くの昆虫が活動するこの時期に、当センターの「いきもののにわ」で子どもたちに昆虫採集を体験してもらいました。身近なところでさまざまな昆虫が生活していることや昆虫採集の方法を理解してもらうとともに、小さな命の尊さや自然の大切さを考える機会を提供しました。

参加者：77名（子ども40名、保護者37名）

担当職員：5名

パートナー：9名

結 果： 少しでも多くの子どもたちに昆虫採集を楽しんでもらおうと、今回は9時からの部と11時からの部の2回に分けて実施し、合計で40人の子どもたちとその保護者37人が参加しました。

講師はハチ博士の久松正樹先生で、最初に普段昆虫採集で使っている道具とその使い方について説明がありました。特に子どもたちの目が輝いたのが、久松先生が用意してくれた柄の部分が伸び縮みする本格的な虫捕り網です。天井までとどくような長い柄と大きなネットを見て、さわってみたい、持ってみたい、そして昆虫を捕まえてみたい！と気持ちは最高潮に！

さっそく、配られたその網をもって外に出て昆虫採集がスタート。いきもののにわの池の周りにはたくさんのトンボが飛んでいます。子どもたちも必死で網をふりますが、素早い動きで網を躲けて飛ぶトンボ。なかなかつかまりません。それだけに網に入った時の嬉しさは格別です。しかし、この後、網の中から手でつかんで虫かごに入れるのも一苦労。

それも貴重な体験です。

花に集まるチョウやクヌギの樹液に集まるクワガタなど、あちらこちらで 30 分ほどみんな思う存分昆虫を追っかけました。

室内に戻ってからは捕まえた昆虫の発表会です。一人ずつ、虫かごに入った昆虫を紹介し、久松先生から解説をしてもらいました。自分が捕まえた昆虫をみんなに見てもらいたくて、とても積極的で、そして堂々とした発表でした。

最後に捕まえた昆虫をいきもののにわに放してもらいました。虫かごから昆虫を放す時の子どもたちのやさしいまなざしがとても印象的でした。

暑い日となり昆虫採集の時間を短めに設定しましたが、コクワガタ、シオカラトンボ、アゲハチョウなど、合計 21 種の昆虫を捕まえ観察することができました。昆虫との触れ合いを通して、その魅力を存分に味わっていただけたのではないのでしょうか。

《観察できた昆虫》

当センター野外施設にビオトープとして整備された「いきもののにわ」には大小の池があり、そこにヨシやガマ、ショウブなど様々な湿地の植物が見られます。そこに水辺を好むトンボや、満開のミソハギのピンクの花にチョウやハナバチが集まってきます。今回、子どもたちが採集し観察できた主な昆虫は次の通りです。

＜トンボのなかま＞ ☐シオカラトンボ ☐オオシオカラトンボ ☐ショウジョウトンボ、
☐アオモンイトトンボ

＜チョウのなかま＞ ☐ヤマトシジミ ☐ベニシジミ ☐モンキチョウ
☐アゲハチョウ ☐ミノムシ（ミノガ幼虫）

＜甲虫のなかま＞ ☐カブトムシ ☐コクワガタ ☐コメツキムシ
☐コガネムシの一種

＜バッタのなかま＞ ☐エンマコウロギ ☐ショウリョウバッタ ☐キリギリス

＜その他＞ ☐オオスズメバチ ☐アブラゼミ＋抜け殻 ☐ウスバカゲロウ

＜昆虫以外のなかま＞☐ヤモリ ☐ヒキガエル

以上

令和8年度第3回霞ヶ浦自然観察会



プロの昆虫採集用具に興味津々



昆虫が集まってくる水辺や花に注目！



トンボは飛ぶのが速くてなかなかつかまらない！



クヌギの樹液にどんな昆虫がいるかな



芝生にはバッタやコオロギがいるよ



あちらこちらで自由に網をふる子どもたち



みんなで車座になって昆虫発表会



自分が捕まえた自慢の昆虫の紹介です